

「Eco列車でいこう!」~第75回 「台北」を旅する(2) (CO2排出量の少ない交通機関での旅行を応援していくコーナーです!)

台湾旅行2日目の朝(8月14日)。ホテルで朝食を済ませると、ワゴン車が迎えにきました。これから市内観光に向かいます。車の中には、20台後半の女性Hさんが乗車しています。神奈川県から来たというSさんは初海外で、初1人旅とのこと。なかなか勇気のある女性です。

各ホテルからの観光客が集合し、大型バスに乗り換えて、由緒正しいお寺を見てから「お茶セミナー」へ。お店の人が、烏龍茶やプーアル茶、鉄観音茶など、商品の紹介をして、試飲させてもらいます。おいしいのがあれば買い物をするというパターンでした。中正紀念堂で衛兵の交代式などを見て、市内のレストランで台湾料理の昼食。その後足つぼマッサージを受けました。ツボを押されて、「イタイイタイ・・・」と言うと、そこは肝臓ですとか、目ですとか、腰ですとか、要するに悪いとこばかりのようです・・・。

観光客でごったがえす故宮博物館で、有名なひすいの彫刻「翠玉白菜」を見て、16時に市内観光は終了しました。

さて、まだ日暮れまでは時間があるので、「千と千尋の神隠し」の舞台になった、「九份(きゅうふん)」へ向かいます。一番簡単なのは直行バスで行く方法ですが、あえて台北駅から電車を選択しました。金曜の夕方、雑然とする駅の自動券売機で、九份の最寄駅「瑞芳」までの切符を購入。特急「自強号」に乗って空席に座っていると、「ここは私の席ですよ。」というようなことを言われました。「ここは指定席だったのか。」と思ったものの、立ってる人がたくさんいます。台湾の特急は全社指定席で、指定券を買えない人は「自願無座」(座席指定の無い特急券)で乗車しているようでした。

変な日本人がアタフタしているので、現地の若い女の子が、スマホの翻訳機を使い、どこまで行くのか?と聞いてきました。「九份」まで行くことを伝えると、同じ「瑞芳」で降りるとのこと。親切にバス停まで案内してくれました。

「瑞芳」から「九份」まではバスで20分くらい。左手に東シナ海を臨みながら、山道をドンドン進んで行きます。

さて、この旅のハイライト。

時刻は18時過ぎ。薄暮の中に突然現れる「九份」。バスを降りて石畳みの坂を見上げると旅情は最高潮に達しました。

が、それもつかの間。日本からの観光客が多すぎて、石段は大渋滞です。まるで初詣のように、ちっとも前に進まず、これでは旅情もなにもありません。「俗化する前に来たかったなあ。」と思いましたが、仕方ないですね。

土産物店などを一通り見ると、時刻は20時。帰りのバス停には人だかりが・・・。300人以上いるのではないのでしょうか。これでは何時に帰れるか分かりません。一計を案じ、となりにいた日本人女性2人組に声をかけ、タクシーの運転士と交渉し、相乗りで台北まで帰ってきました。

時刻は21時過ぎ。夕ご飯をまだ食べていません。地元のお店に入り、台湾ビールを飲み、おつまみにミニガーを食べ、×に牛骨麵をすすりました。台湾は料理名が漢字なので、だいたい見当が付くし、オーダー票に金額が書いてあり、チップも必要が無いので、明朗会計!とても気楽に外食が楽しめます。

ホテルに帰ると、「大改造!劇的ビフォーアフター」が台湾語で放映されていました。(つづく)

